■野菜の除草剤（カボチャ・スイートコーン・にんじん・アスパラガス）

●＝対象雑草、－ ＝対象外、○＝効果が高い、▲＝劣る、空欄＝評価なし（令和6年度北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドより）
効果の表示 ◎大 ○中 △小 ×効果なし 農薬メーカーHP参照

作物名	使用方法	毒性	薬剤名	成分	使用時期	使用量 10a当り	使用回数	対象雑草 一年生雑草	対象雑草 イネ科雑草	対象雑草 多年生雑草	除草効果及び処理限界 シロザ	カスタビメラノ	アブラナ科	アカザ科	タデ科	キク科	ハコベ	ツユクサ	スベリヒユ	一年生イネ科	使用上の注意事項
かぼちゃ	全面土壌散布	－	トレファノサイド粒剤2.5	トリフルラリン 2.5%	【トンネル・マルチ栽培】定植前マルチ前（植穴掘前）（雑草発生前）収穫45日前まで	2kg	2回	●					△		△	△		△			・特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 ・マルチ下処理は実面積あたり薬量を算出して使用する。 ・定植の時、根が直接触れないように注意する。 ・散布は定植7日以上前都市マルチをする。その後、定植数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を揮散させてから 定植。
					【トンネル・マルチ栽培】畦間土壌散布（トンネル除去前）（雑草発生前）収穫45日前まで	4～5kg															
スイートコーン	全面土壌散布	－	ゲザノンゴールド	アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%	は種後発芽前（雑草発生前）	140～200ml（水量70～100ℓ）	1回	●			○			○		○				○	・砂土では使用しない。 ・極端な過湿土壌および左室土壌では、生育を抑制することがあり、使用を控える。 ・メヒシバに効果が劣る。 ・低温等で生育が遅れている場合には、カスリ状の退緑斑を生じることがあるので、薬量を少なくする。 ・水稲に薬害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を避ける。
					生育期（作物2～4葉期			●			○			○		○	○			○	
	雑草茎葉散布または全面散布	－	ブルーシアフロアブル	トルピラレート 10.4%	トウモロコシ3～5葉期 ただし、収穫45日前	40～50ml（水量100ℓ）	1回	●			○			○						○	・イネ科雑草が多い圃場では、高薬量で使用する。 ・一過性の葉身黄化症状が生じることがある。
					トウモロコシ6～7葉期 ただし、収穫45日前	50～75ml（水量100ℓ～150ℓ）		●			◎			◎		○	△			◎	

効果の表示 ◎大 ○中 ×劣る（令和6年度くみあい農作物病害虫・雑草防除ガイドより）、●登録有（2024年12月3日現在）、農薬メーカーHP参照

作物名	使用方法	毒性	薬剤名	成分	使用時期	使用量 10a当り 使用回数以内	使用回数	対象雑草 一年生雑草	対象雑草 イネ科雑草	対象雑草 広葉雑草	除草効果及び処理限界 シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	スベリヒユ	使用上の注意事項
にんじん	全面土壌散布	－	ゴーゴーサン乳剤	ペディメタリン 30.0%	は種後～出芽前（雑草発生前）	200～300ml（水量70～150ℓ）	1回	●	◎		◎	◎	◎	×	◎	・雑草発生後は効果が劣るので使用時期に注意する。 ・土壌が乾燥している時は効果が劣るので適度な水分の時に散布する。 ・激しい降雨が予想される時には使用を避ける。 ・後作物としてかぼちゃ等のウリ科やほうれんそうを作付けすると生育を抑制することがあるので避ける。
		－	ロロックス	リニュロン 50%	は種直後	100～200g（水量70～150ℓ）	1回	●	○～△		◎	◎	◎	△	◎	・砂土系で透水性の良いところは薬害がでやすい。 ・ベーター312は薬害の恐れがあるので、は種直後に使用する。 ・ベーター312で雑草茎葉散布する場合は、にんじん4～5葉期に行い、薬量100g以下、希釈 水量100ℓ以下で行う。 ※播種直後：1回以内、にんじん3～5葉期：1回以内
	雑草茎葉散布				にんじん3～5葉期（雑草発生始期）但し、収穫30日前まで		1回									
		－	ナブ乳剤	セトキシジム 20%	イネ科雑草3～5葉期（但し収穫14日前まで）	150～200ml（水量100～150ℓ）	1回		◎		×	×	×	×	×	・スズメノカタビラには効果が劣る。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 ・効果の発現は遅効性で完全枯死までに7～10日程度要する。
					イネ科雑草6～8葉期（但し収穫14日前まで）	200ml（水量100～150ℓ）										
		－	セレクト乳剤	クレトジム 24%	イネ科雑草3～5葉期（但し収穫40日前まで）	50～75ml（水量100ℓ）	1回		◎		×	×	×	×	×	・スズメノカタビラ優占圃場で単用または広葉雑草対象薬剤との体系処理をする。 ・やや遅効性で効果発現には1週間程度を要する。スズメノカタビラは、これよりやや日数を 要することがある。
アスパラガス	全面土壌散布	－	ロロックス	リニュロン 50%	萌芽前（雑草発生前～発生始期）	150～200g（水量70～150ℓ）	1回	●								・雑草の発生始期で効果が高い。
					萌芽始期 雑草発生前～発生始期（但し、収穫前日まで）	150～200g（水量100～150ℓ）		●								
					生育期（雑草生育期）但し収穫前日まで	150～200g（水量100ℓ）				●						
	雑草茎葉散布	－	セレクト乳剤	クレトジム 24%	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期（収穫前日まで）	50～75ml（水量100ℓ）	2回		◎		×	×	×	×	×	・効果の発現は遅効性で完全枯死までに1～2週間程度を要する。スズメノカタビラにはこれより数日を要することがある。 ・スズメノカタビラ多発圃場では75mlとする。 ・低温時には効果が劣る場合がある。
			センコル水和剤	メトリブジン 50%	萌芽前～萌芽始期	100～150g（水量100ℓ）	1回	●	◎～○		◎	◎	◎	◎	◎	・擬葉展開後に散布した場合に、薬害を生じることがあるので、擬葉展開前に散布し、使用量を厳守する。 ・苗床及び未収穫養成畑では、使用を避ける。また、未収穫養成畑において間作物を作付けする場合は使用しない。 ・有機質含有量の少ない土壌では使用量の範囲名で少なめの薬量をしようする。 ・隣接ほ場、特にてんさい、アブラナ科野菜などへの飛散による薬害に注意する。